

大河ドラマ「どうする家康」の放送も近付いてきました。家康公がどうすると悩んできたように市政においても様々な決断をしなければならない事があります。最近では給食費について、コロナ禍やウクライナ危機による物価高騰もあり、値上げをどうするか悩みました。

本市では平成21年度に現在の額に改定して以降、価格を据え置いてきています。消費税8%への改定や食材料費の価格上昇も公費で賄うことで保護者負担を増やすことなく、給食の提供を継続しています。また、平成28年度からは毎年4月分の給食費無償化も実施しており、食材料費については、年間約2億5千万円の公費負担により保護者負担の軽減を図っています。

令和4年度については、市議会4会派からの要望もあり、限りある財源や社会情勢による家計のひっ迫など、様々な状況を熟慮し、また、今年掲げている「10の寅年ビジョン」の一つである「とにかく子どもの取組み」の考えも踏まえ、値上げはしないこととしました。

今後も、子どもたちに寄り添い、安全で安心な給食の提供を行っていきます。



岡崎市長  
中根 康浩